

あとほりいせき

跡堀遺跡

(海老名市No.82遺跡)

調査期間 20071101～20081228

所在地 海老名市門沢橋・中野

時代
弥生
古墳
古代
中世
近世



作成日:20080912

概要

この遺跡は2004年から2006年まで調査を実施しました、門沢橋跡堀遺跡と同じ遺跡で、2007年4月にこの名称に改められました。

今回の調査も中日本高速道路(株)による第二東名高速道路建設に伴う調査として、2007年11月から開始しました。遺跡はJR相模線門沢橋駅の北西約600mの相模川によって形成された自然堤防上に存在しています。遺跡付近の標高は概ね14m程です。

今回の調査は高速道路の橋脚の基礎部分11ヶ所について実施しました。調査地点は南北に広がっています。南寄りの調査区では2度の調査を通じて初めて、古墳時代後期(6世紀)の竪穴住居址が発見され、完形の土師器坏などが出土しました。

また、隣の調査区では段丘状遺構の段丘斜面下から水場遺構が発見されました。段丘底の平坦面に礫を配し斜面際に木製の曲物を配置しています。

周辺からは9~10世紀の土器片が出土し、この遺構も同じ時期と考えられます。

これら以外に中世・近世の溝状遺構や土坑、井戸などの遺構や陶磁器類、木製品などの遺物は各調査区から広く発見されています。中世の107号溝は南北に連続して発見され、1次調査の際に発見された36号溝と同一の溝であることが判明し、現在確認されているだけでも延長約120mに及んでいます。



▲水場遺構



▲107号溝



▲1号河道